

吉野川で遊ぼう！！



吉野川大歩危（まんなかの瀬）

はじめまして 川遊び大好きアクティブ系河川管理者「遊び人のM」です。
仕事も遊びも全力でやってみる。をモットーに吉野川で遊ぼう！！を担当します。

新米のころ尊敬する先輩に「川で遊んだこともない人間がいい川をつくれるはずがない」
「平日は現場を見る。休日は川で遊べ」と指導され、その教えを忠実に守り、今も川によく
出かけ、いい川づくりとは何か…と思いを巡らせています。



よく
「川で遊んでもいいの？」
「キャンプしたいんだけど国交省に怒られない？」
と聞かれます。そんな大人たちに私は大きな声で言いたい。

「川で遊ぶのは自由！」

大人としてルールとマナーを守って楽しく遊びましょう。

第1回は「吉野川ラフティング！」です。

10年くらい前から毎年、職場の若手とラフ
ティングに挑戦しています。若手たちに川を好
きになってもらうために！と言いながら…もち
ろん自分が一番楽しんでます。

今年は総勢30人で小歩危1日コースに挑戦
してきました。



※吉野川は日本ラフティングツアー発祥の地

吉野川の ^{おおほけこほけ} 大歩危小歩危（高知と徳島の県境あたり）は日本一の激流と言われ、日本のラフティングツアー発祥の地です。

2017年には、日本で初めてラフティング世界選手権が開催されます。



※体験レポート（りょうま）

ラフティングは中学校の修学旅行（長野県）以来でした。そのときの印象はボートに乗って揺られながら川を下り楽しい程度のものでした。

しかし、今回吉野川の大歩危・小歩危でのラフティングは当時のものと大きく異なるものでした。

一番の違いは「激しさ」です。ラフティングの醍醐味は水の流が速く白波が立って激しくなっている「瀬」と呼ばれる場所をかき分けて行く事ですが、その瀬の規模が桁違いでした。一番印象的だったのは「大滝の瀬」と言われる瀬で高低差6mを30m程度で下る瀬で何度も崖のような落ち込みがあります。私は一番前の位置にいたのですが落ち込みを下るときは水の壁に突っ込んで行くようでした。自分より先に瀬を下っているボートも見たいいどんな感じの瀬なのかはわかりますが、前のボートではうまくよけた岩にぶつかったり、進行方向に対し横向きになってしまったりと下り方はそれぞれで、自分達はどうなるのかとてもわくわくしました（前のボートが転覆したときは特に）。



吉野川でのラフティングは大変刺激的で、瀬を下る中でボートから投げ出されることもありましたが、川に落ちてもしライフジャケットを着ているので、落ち着いて川に身を預けるとぷかぷか浮かんだまま水の流がゆっくりな「淵」まで流され、特別危険を感じることもありませんでした。

普段、主に地図や写真でしか向き合わない吉野川で遊んで吉野川の新しい一面を見られ大変有意義な体験になりました。

瀬の名前や落差まで憶えているのは、川の遊び人の素質ありです。川や自然の楽しさを、後輩たちに伝えられる素敵な先輩になってもらいたいものです。